

## 日本教育大学協会全国美術部門

## 会 報 NO.43

編集・発行 大学美術教育学会総務局広報室  
 代 表 大嶋 彰 (滋賀大学)  
 総務局長 相田隆司 (東京学芸大学)  
 事務部長 佐藤聡史  
 事務部 〒389-0406 長野県東御市八重原 2912  
 TEL: 090-2560-5998 / FAX: 0268-61-6162  
 mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp

## 全国美術部門 51 回目の課題



副代表 (副) 山口喜雄 (宇都宮大学)

2012年10月の大分大会で51回目の日本教育大学協会全国美術部門(以下、教大協・美術部門)協議会を迎える。その2012年度美術部門代表に滋賀大学の大嶋彰氏、同副代表(正)に上越教育大学の西村俊夫氏、同副代表(副)に筆者が選出された。また、美術部門会報編集を担当する総務局長で東京学芸大学の相田隆司氏により数年間の巻頭言執筆計画が提示され、今回は筆者が担当することになった。本稿では、最近数年間における美術部門活動の概略、そして美術部門をめぐる2012年の動向からその課題を考察する。

「美術部門」概念は、2012年3月まで代表を務めた藤江充氏による記述(2010/07)を概括すると次のようになる。教員養成系の国立大学・学部が組織加盟している教大協の19ある全国研究部門の一つで、加盟大学・学部の美術関係講座に所属する専任教員は教大協会員、かつ美術部門に属する。そのため、両会員は日本における教育振興への美術教育による貢献が求められる。また、会員350名を越す部門は、ある意味で「教員養成・美術」に関する「職能」団体で地区会活動が原点であるため、既に教科内容学検討委員会が実施したような調査・研究の活動が不可欠で、会員相互の協力が前提となる。

次に、2010年3月まで委員長(2010年度以降が代表)として美術部門活動を刷新した橋本光明氏による旧態からの「新たな部門の幕開け」(2010/03)を概括する。注目は教科内容学検討委員会の活動で、2009年9月愛知大会での部門協議会シンポジウムと2010年2月のフォーラム・パネルディスカッションにおいて多様な可能性を示した。同委員会の課題は、教員養成の使命に立ち返った独自性のある教育課程の改善を目的に教科専門の授業内容の見直しと構築、教科教育との連携・一体化、学校教育の視点による内容改善等である。2009年11月に全造連傘下にある美術部門として中学校美術教諭全校配置の要望書を文科省等

に提出した。全造連大学委員会(2012年現在は大学・美術館部会)は、私学組織の全美協と一層の連携を深め、学校教育との関係、教職実践演習や教員免許更新制、6or5年制養成、教職大学院等に関し資質・ニーズ・経費等の面から意見交換し、教科内容学検委との協働も視野に入れた活動の展開が必要である。附属学校園の在り方や活用方策等、改善を迫られている時期の附属学校委員会の活動も重要な局面にある。

ところで、中央教育審議会は2012年8月28日、教員養成の在り方を見直し、学部4年間に加え大学院「修士課程」履修要請を平野文部科学大臣に答申した。これを予見し、2012年3月まで総務局長の山田一美氏は「教員養成『修士化』構想に思う」(2011/08)、前代表の藤江充氏は「教員免許状をめぐる議論について」(2012/03)と題して特筆し、図画工作・美術教育に責任をもつ部門会員に対し各々の立場からの発言や提案を望むと記した。

美術教育関係三学会(日本美術教育学会・美術科教育学会・大学美術教育学会)による2009年9月の「造形芸術教育協議会」の設立、その発展的な協議の継続も課題である。もう一つ重要な動きとして、国公立五芸術大学協議会(東京芸術大・愛知県立芸術大・金沢美術工芸大・京都市立芸術大・沖縄県立芸術大の各学長)の呼びかけによる2012年6月の芸術表現学会設立がある。その目的は、「美術、工芸、デザイン、音楽、舞踏、芸能等」の分野における「芸術研究に携わる創作者・演奏者・研究者のパワーを結集して、表現芸術に携わる者全ての環境向上、ひいては日本の文化芸術発展向上」にあるという。美術あるいは芸術により人間社会を豊かに培うという共通の目的があることは嬉しい。けれども、芸術表現学会は表現により芸術家自らを輝かす“for arts”が目的であるのに対して、全国美術部門は美術を通して子どもたち一人一人を輝かす“through art”が目的であることを忘れてはならない。

## H24 年度就任の新役員紹介

上から役職名、氏名、任期、所属、教育・研究分野

### 代表

大嶋 彰（おおしま・あきら）  
平成 24-25 年度  
滋賀大学教育学部  
絵画



### 副代表（副）

山口喜雄（やまぐち・のぶお）  
平成 24-25 年度  
宇都宮大学教育学部  
美術科教育、美術科教科書・美術教育文献研究



### 特別委員

藤江 充（ふじえ・みつる）  
平成 24 年度  
愛知教育大学教育学部  
美学、美術教育学



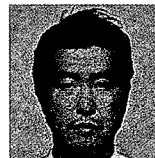
### 総務局長

相田隆司（あいだ・たかし）  
平成 24-25 年度  
東京学芸大学教育学部  
美術科教育



### 総務局部門総務部長

大泉義一（おおいずみ・よしいち）  
平成 24-25 年度  
横浜国立大学教育学部  
美術教育学



### 総務局

新野貴則（にいの・たかのり）  
平成 24-25 年度  
山梨大学大学院教育学研究科  
図画工作科・美術科教育



### 総務局

山田一美（やまだ・かずみ）  
平成 24-25 年度  
東京学芸大学教育学部  
美術科教育学



### <地区全国委員>

#### 〔北海道〕地区全国委員

佐々木 宰（ささき・つかさ）  
平成 24-25 年度  
北海道教育大学釧路校  
美術教育



#### 〔東北〕地区全国委員

遠藤敏明（えんどう・としあき）  
平成 24-25 年度  
秋田大学 教育文化学部  
美術教育、木材工芸



#### 〔関東〕地区全国委員

片口直樹（かたぐち・なおき）  
平成 24-25 年度  
茨城大学教育学部  
絵画



#### 〔北陸〕地区全国委員

江藤 望（えとう・のぞみ）  
平成 24-25 年度  
金沢大学人間社会学域学校教育学類  
彫刻



#### 〔東海〕地区全国委員

白井嘉尚（しらい・よしひさ）  
平成 24-25 年度  
静岡大学教育学部  
絵画



#### 〔近畿〕地区全国委員

初田 隆（はつだ・たかし）  
平成 24-25 年度  
兵庫教育大学教育学部  
絵画・美術教育



#### 〔四国〕地区全国委員

古草敦史（ふるくさ・あつし）  
平成 24-25 年度  
香川大学教育学部  
絵画



#### 〔中国〕地区全国委員

橋ヶ谷佳正（はしがや・よしまさ）  
平成 24-25 年度  
岡山大学大学院教育学研究科美術教育講座  
視覚伝達デザイン、美術教育



#### 〔九州〕地区全国委員

宮田洋平（みやた・ようへい）  
平成 24-25 年度  
福岡教育大学教育学部  
金属工芸



#### 部門大会運営委員

村田利裕（むらた・としひろ）  
平成 24-25 年度  
京都教育大学教育学部  
美術科教育



#### 監事

小澤基弘（こざわ・もとひろ）  
平成 24-25 年度  
埼玉大学教育学部  
絵画



## 平成 24 年度 役員・各種委員会委員 氏名

代 表 大嶋 彰 (滋賀大学 24-25)  
副 代 表 (正)西村俊夫 (上越教育大学 23-24) (副)山口喜雄 (宇都宮大学 24-25)  
特別委員 藤江 充 (愛知教育大学 24)  
<総務局>  
総務局長 相田隆司 (東京学芸大学 24-25)  
部門総務部長 大泉義一 (横浜国立大学 24-25)  
新野貴則 (山梨大学 24-25) 大成哲雄 (聖徳大学 24-25) 山田一美 (東京学芸大学 24-25)  
小泉 薫 (お茶の水女子大附属中学校 21-22,23-24) 竹内とも子 (千代田区立九段小学校 21-22,23-24)  
<事務部>  
事務部長 佐藤聡史 (民間 21.22.23.24)

### □地区全国委員

[北海道] 阿部宏行 (北海道教育大学岩見沢校 23-24) 佐々木 宰 (北海道教育大学釧路校 24-25)  
[東 北] 降旗 孝 (山形大学 23-24) 遠藤敏明 (秋田大学 24-25)  
[関 東] 加藤 修 (千葉大学 23-24) 片口直樹 (茨城大学 24-25)  
[北 陸] 宮崎光二 (福井大学 23-24) 江藤 望 (金沢大学 24-25)  
[東 海] 竹井 史 (愛知教育大学 22-23-24) 白井嘉尚 (静岡大学 24-25)  
[近 畿] 宇田秀士 (奈良教育大学 23-24) 初田 隆 (兵庫教育大学 24-25)  
[四 国] 山田芳明 (鳴門教育大学 23-24) 古草敦史 (香川大学 24-25)  
[中 国] 蜂谷昌之 (広島大学 23-24) 橋ヶ谷佳正 (岡山大学 24-25)  
[九 州] 富田礼志 (大分大学 23-24) 宮田洋平 (福岡教育大学 24-25)

### □部門大会運営委員

富田礼志 (大分大学 23-24) 村田利裕 (京都教育大学 24-25)

### □監事

増田金吾 (東京学芸大学 23-24) 小澤基弘 (埼玉大学 24-25)

### □部門各種委員会

(1) 附属学校委員会<任期2年…校園長経験を有する総務局を除く委員> (H24 年度 4名)

委員長 天形 健 (福島大学 24-25)

委員 伊藤文彦 (静岡大学、24-25) 佐藤昌彦 (北海道教育大学 24-25) 片野 一 (福島大学 24-25)

(2) 全国造形教育連盟大学委員会<任期2年…全造連大会開催地区大学及び近隣地区代表委員> (H24 年度 6名)

委員長 大嶋 彰 (滋賀大学 24-25)

総務局長 相田隆司 (東京学芸大学 24-25) 総務局 小泉 薫 (お茶の水女子大附属中学校 21-22,23-24)

委員 阿部宏行 (北海道教育大学岩見沢校 24) 小澤基弘 (埼玉大学 24-25) 小池研二 (横浜国立大学 24-25)

(3) 特別課題検討委員会 ※任期1年、再任可。(H24 年度 11名)

委員長 西村俊夫 (上越教育大学 24)

委員 石井壽郎 (東京学芸大学 24) 石上城行 (埼玉大学 24) 大泉義一 (横浜国立大学 24)

喜多村徹雄 (群馬大学 24) 郡司明子 (群馬大学 24) 小澤基弘 (埼玉大学 24) 齋江貴志 (群馬大学 24)

神野真吾 (千葉大学 24) 高須賀昌志 (埼玉大学 24) 林 耕史 (群馬大学 24)

\* \* \* \* \*

### 日本教育大学協会関係委員

『日本教育大学協会研究年報』査読候補者 (4名・H24 年度・毎年度)

## 日本教育大学協会全国美術部門 平成 23 年度事業報告

(平成 23 年 4 月)

※前年度事業「部門会報・第 40 号」発行 H23.3.31 発送 H23.5.7 (宮城大会予告)

4 月 1 日 (金) 日本教育大学協会への事業報告 (H22.12-H23.3 事業分)、6 月会議室確保

[平成 23 年度]

6 月 16 日 (木) 全国美術部門協議会・総会ほか日程、「宮城大会案内 (第 1 次)」発送

6 月 17 日 (金) H23 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦

6 月 平成 22 年度会計監査 (西村監事・大宮監事)

6 月 19 日 (日) 総務局会・拡大理事会 (役員・委員長出席)

・第 1 回全国美術部門役員会・各種委員会 (教育内容学検討委員会、附属学校委員会、次期代表選考委員会) (東京文化会館: 中会議室 No.1, 小会議室 No.1, 小会議室 No.2, 応接室 No.1)

6 月末～7 月 「部門会報・41 号」、「宮城大会案内 (第 2 次)」発送

9 月 16 日 (金) 部門運営委員会 (都内会議室、予定)

9 月 23 日 (金) 拡大総務局会・拡大理事会 (役員・委員長出席)・第 2 回全国美術部門役員会、各種委員会 (全造連大学委員会: 全美協との合同協議※ H20 以降、附属学校委員会、教科内容学検討委員会、次期代表選考委員会) (仙台市: 宮城教育大学)

9 月 24 日 (土) 全国美術部門「宮城大会」開催 (宮城教育大学) 部門総会、部門協議会 (教科内容学検討委員会まとめ)、

9 月 25 日 (日) 午後、次期開催大学への引継ぎ (宮城教育大学—大分大学)

12 月初旬 日本教育大学協会への事業実績報告 (H23.4-12 分)

12 月末 「全国美術部門会員名簿」作成・郵送 (※隔年版)

(平成 24 年)

1 月 27 日 (金) 日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会 (東京学芸大学本部)

1 月 28 日 (土) 部門運営委員会 (学芸大、又は都内会議室)

3 月 12 日 (月) 又は 13 日 (火) 拡大総務局会・拡大理事会 (役員・委員長出席)・第 3 回全国美術部門役員会、各種委員会 (次期代表選考委員会報告) (東京文化会館予定)

3 月中旬 「部門会報・第 42 号」発行・郵送

(4 月 1 日 日本教育大学協会への事業報告 (H23.12-H24.3 事業分)、6 月会議室確保)

以上

## 日本教育大学協会全国美術部門 平成 24 年度事業計画 (案)

(平成 24 年 4 月) ※前年度事業「部門会報・第 42 号」、発行 H24.3.31 (大分大会・予告)  
4 月 1 日 (日) 日本教育大学協会への事業報告 (H23.12-H24.3 事業分)、6 月会議室確保

[平成 24 年度]

- 5月31日(木) H24論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦
- 6月10日(日) 部門運営委員会(東京文化会館小会議室No.2)
- 6月27日 全国美術部門協議会・総会ほか日程、「大分大会案内(第1次)」発送
- 6月 平成23年度会計監査(増田監事・小澤監事)
- 8月1日(水)～3日(金) 第65回全国造形教育研究大会2012/沖縄大会 全国造形教育連盟大学委員会(8月1日)
- 8月20日 「部門会報・43号」、「大分大会案内(第2次 最終)」(予定)
- 9月16日(日) 部門運営委員会(都内会議室、予定)
- 10月19日(金) 拡大総務局会、・拡大理事会(役員・委員長出席)・第1回全国美術部門役員会、各種委員会(全造連大学委員会、  
全美協との合同協議※H20以降、附属学校委員会、特別課題検討委員会)(大分大学)、
- 10月20日(土) 全国美術部門「大分大会」開催(大分大学)、部門総会、部門協議会
- 10月21日(日) 午後、次期開催大学への引継ぎ(京都教育大学ー大分大学)
- 12月初旬 日本教育大学協会への事業実績報告(H24.4-12分)

(平成25年)

- 1月25日(金) 日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会(東京学芸大学本部)
- 1月26日(土) 部門運営委員会(学芸大、又は都内会議室)
- 3月13日(水)
- 又は14日(木) 拡大総務局会、・拡大理事会(役員・委員長出席)・第2回全国美術部門役員会、各種委員会(次期代表選考委員会  
報告)(東京文化会館予定)
- 3月中旬 「部門会報・第44号」発行・郵送
- (4 月 1 日 日本教育大学協会への事業報告 (H24.12-H25.3 事業分)、6 月会議室確保)

以上

日本教育大学協会全国美術部門 平成 23 年度決算

収入の部	費目	平成 23 年度予算	平成 23 年度決算	増減
	前年度繰越	165,981	165,981	0
年会費	会費収入	990,000	747,000	-243,000
助成金	教大協成金	80,000	80,000	0
	収入合計	1,235,981	992,981	-243,000
<b>支出の部</b>				
補助金及び負担金	全国協議会補助金	300,000	300,000	0
	全造連負担金	8,000	8,000	0
印刷製本費	部門会報刊行費 *	70,000	89,800	19,800
	部門通信刊行費 *	10,000	0	-10,000
	名簿刊行費	120,000	105,000	-15,000
	封筒その他印刷費	30,000	29,400	-600
運営費	委員会費	70,000	85,240	15,240
	委員等経費	100,000	0	-100,000
	交通費	5,000		-5,000
事務経費	支払手数料	5,000	80	-4,920
	通信費	5,000	5,000	0
	郵送費	20,000	0	-20,000
	事務費	5,000	5,000	0
	雑費	5,000	0	-5,000
予備費	予備費	382,981	0	-382,981
委託費	事務部業務委託費	100,000	46,000	-54,000
	次年度繰越		319,461	
	支出合計	1,235,981	992,981	

日本教育大学協会全国美術部門 平成 24 年度予算 (案)

収入の部	費目	平成 23 年度予算	平成 24 年度予算	増減
	前年度繰越	165,981	319,461	153,480
年会費	会費収入	990,000	990,000	0
	未納会費	0	240,000	240,000
助成金	教大協成金	80,000	80,000	0
	収入合計	1,235,981	1,629,461	393,480
<b>支出の部</b>				
補助金及び負担金	全国協議会補助金	300,000	200,000	-100,000
	全造連負担金	8,000	4,000	-4,000
印刷製本費	部門会報通信刊行費 *	80,000	100,000	20,000
	名簿刊行費	120,000	0	-120,000
	封筒その他印刷費	30,000	30,000	0
	教科内容学検討委報告書	0	200,000	200,000
運営費	特別課題検討委員会費	0	200,000	200,000
事務経費	支払手数料	5,000	5,000	0
	通信費	5,000	5,000	0
	郵送費	20,000	50,000	30,000
	事務費	5,000	5,000	0
	雑費	5,000	5,000	0
予備費	予備費	382,981	725,461	422,480
委託費	事務部業務委託費	100,000	100,000	0
	合計	1,235,981	1,629,461	

\*24 年度より会報通信印刷費として 1 本化した。

## 特別課題検討委員会の設置について

特別課題検討委員会委員長  
西村俊夫（上越教育大学）

2012年4月に「特別課題検討委員会」が設置された。委員会の目的は、2009年3月から2012年3月まで活動していた「教科内容学検討委員会」の成果の評価作業を行い、未解決の課題について検討することである。

2009年3月に「美術教育における教科内容学の検討ワーキンググループ」として発足し、同年6月に名称を「教科内容学検討委員会」と変更したこの委員会は、2010年の東京大会におけるシンポジウム開催と「中間まとめ」の発表や全国アンケートの実施などの活動を行い、2012年3月に「発展的」に解散された。

ここで、「教科内容」を検討するこの委員会の設立時の背景と今日の「教科内容」に関する情勢について考えてみたい。報告書の冒頭で松浦昇委員長は、このワーキング発足の背景として、平成13年11月に文部科学省から出された『今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方について』（『在り方懇』）において、「教員養成系大学・学部の存続意義が問われ、その指摘による『大学における美術教育の危機』意識と、教育現場の授業時間数の削減等による『美術教育現場の危機』意識が、根底にあった」と述べている。

この「在り方懇」の報告書では、「教科専門科目の分野は、理学部や文学部など一般学部でも教育されている。教員養成学部の独自性や特色を発揮していくためには、教科専門科目の教育目的は他の学部とは違う、教員養成の立場から独自のものであることが要求される」と指摘されている。教員養成学部独自の教科専門科目の在り方が問われているわけだが、ここでの指摘が解決されないまま今日に至っているのが実情であろう。

さらに、本年の5月に中央教育審議会「教員の資質能力向上特別部会」のまとめ『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』が出された。この中で「教科に関する科目については、学校教育の教科内容を踏まえて、授業内容を構成することが重要である。そこで、例えば、『教科に関する科目』担当教員と『教職に関する科目』担当教員とが共同で授業を行うなど、教科と教職の架橋を推進するなどの取組が求められる。併せて、教科教育学の更なる改善も必要である。特に、教員養成系以外の課程における教科に関する科目については、全学的組織である教員養成カリキュラム委員会等の組織を活用し、担当教員に対し、教職課程の科目であることを意識して展開することを徹底することが必要である」と指摘されている。

このように今日改めて「教科に関する科目」のあり方が厳しく問われていると言えよう。教大協美術部門が2009年に「教科内容」の検討を始めたことは、極めて意義深い

ことである。「発展的」に解散した「教科内容学検討委員会」の報告書の最後は「図画工作・美術科教育は、創造それ自体を教育するということであり、他のどの教科よりも創造性に直接的に関わる教科である。したがって、今後本委員会においては、「創造」を構造化し、本教科の教育内容をその構造のなかに一つ一つ照応させていくことなかから、具体的な作業を始める必要がある」と締めくくられている。

したがって、特別課題検討委員会は「創造とは何か」を理念的基盤として具体的な作業に入ることを今年度の活動の基本的な方針とすることとした。期間は、原則として2012年4月から2013年3月までの一年間とし、必要な場合は継続することとした。月に1回程度のペースで委員会を開催する予定である。委員会のメンバーは原則として関東地区の大学教員で構成するが、必要に応じて委員を追加することとした。

発足時における委員構成は以下のとおりである。

西村俊夫（上越教育大学：工芸）＊委員長／石井壽郎（東京学芸大学：工芸）／石上城行（埼玉大学：彫刻）  
大泉義一（横浜国立大学：美術科教育）／喜多村徹雄（群馬大学：絵画）／郡司明子（群馬大学：美術科教育）／小澤基弘（埼玉大学：絵画）／齋江貴志（群馬大学：デザイン）  
／神野真吾（千葉大学：美術理論美術史）／高須賀昌志（埼玉大学：デザイン）／林耕史（群馬大学：彫刻）

## 全国造形教育連盟大学委員会報告

小池研二（横浜国立大学）

「～太陽（ティータ）の島から発信する造形教育～」のテーマのもと第65回全国造形教育研究大会が8月1日から3日まで沖縄県浦添市で行われた。1日目の大学部会では前半に埼玉大学 小澤基弘氏による「平成24年度特別課題検討委員会報告」及び、京都聖母女学院短期大学 山成昭世氏による「短期大学教員養成課程での取り組みについて～子どものための遊具制作～」の2つの発表があった。

小澤氏からは、数年来研究を続けてきた教科内容学に関して新たに立ち上げた委員会についての報告であった。「図画工作・美術科の教育において踏まえるべき教育内容を構造化・明文化すること」という委員会の目的が示され、創造性とは何かといった図工・美術科教育の本質について問題提起がなされた。

一方山成氏からの発表は、学生による卒業制作を通して得られた様々な教育的意義が34年間、関わった学生数約5000名、制作された作品数約1100点という長期間にわたる実践から導き出されているものであった。前半の2つの発表は、美術教育をマクロ及びミクロの視点から捉えるものとして興味深いものであった。後半は沖縄県立芸術大学、沖縄大学 佐藤文彦氏による「金城哲夫をキーパーソンとした造形ワークショップ・作品展示等の実践について」の発表があった。

沖縄出身の脚本家金城哲夫を核にして学生が企画したワークショップ等の活動についての発表であり、沖縄の特色が感じられる内容であった。

前後半ともフロアから積極的な質問や意見があり、活発な部会となった。2日目は校種別の公開授業・保育、研究発表、協議があり、大学教員も指導助言者として参加した。協議等を通じて学校現場の雰囲気や直に触れることができた貴重な機会となった。

## 運営委員会報告

総務局長 相田隆司（東京学芸大学）

平成24年6月10日に教大協全国美術部門・大学美術教育学会運営委員会が開催されましたのでその概要につき報告します。

日時：平成24年6月10日（日）13:00～17:00

場所：東京文化会館 小会議室2

出席：大嶋彰、西村俊夫、岩村伸一、山口喜雄、新関伸也、藤江 充、山田一美、大泉義一、芳賀正之、天形 健、安東恭一郎、佐藤聡史、相田隆司（以上13名）

< 審議・報告事項 >

### 1 新役員・新委員会

(1) 平成24年度 部門・学会 役員・委員

### 2 事業計画等

- (1) 部門 平成23年度事業報告 平成24年度事業計画
- (2) 学会 平成23年度事業報告平成24年度事業計画
- (3) 大会関連

### 3 予算等

- (1) 平成23年度 部門・学会 決算
- (2) 平成24年度 部門・学会 予算案
- (3) 全造沖縄大会関連

### 4 各種委員会等

- (1) 学会誌委員会
- (2) 国際交流委員会
- (3) 特別課題検討委員会
- (4) 附属学校委員会

### 5 その他

- (1) 国際芸術教育週間に関する依頼について

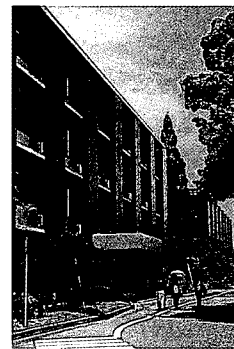
### 6 総務局・事務部より

- (1) ホームページ関連
- (2) 事務部関連

以上



# 第 51 回 大学美術教育学会大分大会 大会日程



## (平成 24 年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会・総会)

1. 日時：2012 年 10 月 19 日 (金) 大会前日諸会議、20 日 (土)・21 日 (日) 全国大会及び総会ほか
2. 会場：大分大学 教育福祉科学部棟 〒 870-1192 大分県大分市大字旦野原 700 番地  
http://www.oita-u.ac.jp
3. 参加費：学会員・一般参加者 5,000 円、大学院生 3,000 円 (現職院生は 5,000 円)、学生・留学生 1,500 円
4. 会場アクセス：JR 利用 大分駅—JR 豊肥本線—大分大学前駅—徒歩—大分大学 (20 分)  
大分バス利用 「大分駅前」もしくは「トキハデパート前 1 番のりば」から、  
「大南団地・高江ニュータウン」「大分大学」行—「大分大学正門」、または「大分大学 (構内)」下車 (30 分)  
「戸次」「臼杵」「竹田」「佐伯」行き—「大分大学入口」下車 (30 分)
5. 大会ブログ：<http://oitaart.blogspot.jp/>
6. 問い合わせ：富田礼志 大分大学 TEL/FAX 097-554-7597、携帯 090-5288-2106、tomita@oita-u.ac.jp

### <大会日程等>

#### 【大会前日の諸会議】 2012 年 10 月 19 日 (金) 各委員会、役員会 教育福祉科学部棟 1F 【会場は当日掲示】

13:30-14:00	拡大総務局会議【正副理事長・正副代表・総務局員・事務部員】	
14:00-14:50	全造連大学委員会【部門】 ※全国大学造形美術教育連絡協議会 (年 1 回の美術部門全造連大学委員と全美協の懇談会)	第 1 会議室
14:50-15:50 ※審議延長は 17:50 まで可	国際交流委員会【学会】 学会誌委員会【学会】 附属学校委員会【部門】 特別課題検討委員会【部門】 (全美協 役員会)【私学】	第 2 会議室 地域交流室 改革推進室 201 号教室 201 号教室
15:40-15:50	拡大理事会受付【学会・部門共通】	第 1 会議室入口
15:50-17:00	拡大理事会【学会+部門 (共通審議事項を含む)】	第 1 会議室
17:00-17:50	美術部門協議役員会【部門】	第 1 会議室

#### 【大分大会第 1 日】 2012 年 10 月 20 日 (土) (教育福祉科学部棟)

09:30-	部門受付	教育福祉科学部棟正面玄関
10:00-11:00	部門総会、協議会 全美協総会 大学美術教育学会受付	100 号教室、201 号教室 教育福祉科学部棟正面玄関
11:00-11:25	第 51 回大学美術教育学会全国大会開会式	100 号教室
11:30-11:57	口頭発表	203 号, 204 号, 303 号, 304 号教室
12:00-13:00	昼休み ※学食、生協、コンビニをご利用下さい。	200 号教室開放
13:00-15:37	口頭発表 (14:00 ~ 14:10 休憩)	203 号, 204 号, 303 号, 304 号教室
16:00-17:30	シンポジウム「地域から発信するアート」	100 号教室
17:30-19:00	懇親会場へ移動 送迎バスあり	
19:00-21:00	懇親会	レンブラントホテル大分

#### 【大分大会第 2 日】 2012 年 10 月 21 日 (日) (教育福祉科学部棟)

09:30-	受付	教育福祉科学部棟正面玄関
10:00-11:57	口頭発表	202 号, 203 号, 204 号, 303 号, 304 号教室
12:00-13:00	昼休み ※学食、コンビニ (学外) をご利用下さい。	200 号教室開放
13:00-13:25	ポスター発表	100 号教室
13:30-14:57	口頭発表	203 号, 204 号, 303 号, 304 号教室
15:10-15:40	大学美術教育学会総会	100 号教室
15:50-	引き継ぎ (大会運営理事 H24 大分大学・H25 京都教育大学)	100 号教室

※大会期間中、別府市で「別府現代芸術フェスティバル 2012『混浴温泉世界』」が開催されています (10 月 6 日～12 月 2 日)。本大会の一環として「混浴温泉世界」実行委員会との共催によるエクスカッション (見学会等) を、21 日夜または 22 日に計画しています。詳細は決まりしだい、大会ブログでお知らせします。

## 近畿地区会報告

日時:平成 24 年 6 月 3 日(日) 13:30 - 16:00

会場:兵庫教育大学 神戸サテライト

参加者:岩村・村田(京教)、橘(滋賀)、寺川・永沼(和歌山)、鈴木(神戸)、佐藤・江藤・渡邊(大教)、宇田・シーボルド(奈良)、初田・喜多村・高木・前芝・金(兵教)

### ■各大学の課題や取り組みが以下の通り紹介された。

(京都教育) 附属、施設等との連携研究、大学内での附属学校園の子どもの作品展、附属学校への出前授業などの取り組みが紹介された。

(滋賀大学) 美的教育の開発をテーマにした授業、ミシガン大学との交流についての事例などが紹介された。また、「哲学」の必要性や美的体験を重ねることが学生にとって重要であることなどが確認された。

(和歌山大学) いくつかの連携研究—機関誌の発刊、シンポジウム、美術館との連携授業など—についての紹介がなされた。

(神戸大学) 各教員へのアンケートを基に、それぞれの問題意識が紹介された。入試においてデッサン力が必要であること、進行中の大学改組に展望が見えにくいこと、などである。また、基本的な表現の経験をくぐりぬけていくことが重要であるとしたうえで、コラージュをテーマとした授業の紹介がなされた。

(大阪教育大学) 以下の取り組みの事例が紹介された。(H)地域連携(院生企画によるゲストアーティストの招聘)(I)図画工作(初等学生対象授業)の授業改善 (K)学生の主体性育成の取り組み(学生の企画によるプロジェクト)(N)HPのリニューアル、ブログの開設(先輩の作品を紹介)。その他、実習の充実やカリキュラムの改革、入試の改善、教養学科の将来構想などについて紹介された。

(奈良教育大学) 新しい学内組織、入試への対応、教員採用試験への対応(特別対策プログラムの具体的な内容)などについての紹介がなされた。また、具体的な取り組みとして、平城高校との連携事業(高校生のサポート)やワークショップ(幼稚園児との造形を介した連携)、「青丹彩展」などについて紹介された。

(兵庫教育大学) 4+αや教職大学院化が進行する中で、美術コースの将来イメージが描きにくいといった問題について説明がなされた。

最後に、議長より次年度に向けての課題が整理されて、閉会となった。(初田)

## 東北地区会報告

日時:平成 24 年 7 月 6 日(金)

会場:福島市舟場町「街なかランチ」

開催大学:福島大学

参加者:弘前大学(富田晃)、岩手大学(近藤克義)、宮城教育大学(村上タカシ)、山形大学(降旗 孝、和田直人、八木文子、斎藤学)、秋田大学(笠原幸生、遠藤敏明)、福島大学(片野一、天形 健、新井浩、三浦浩喜、渡邊晃一、加藤奈保子) 15名出席

### ■協議事項

「東北地区と北海道地区の協力のあり方について」

統合した両地区がどのように協力・分担していくかについての然るべき見解を、地区の教員数などを鑑みながら、東北地区として協議した。東北地区全国委員がこの地区会での協議内容をもとにしながら、北海道地区の全国委員との間で検討を加え成案を得ていくこととした。

### ■報告事項

「平成 23 年第 50 回大学美術教育学会宮城大会について」  
宮城教育大:震災後のため開催自体が危ぶまれた。口頭発表締め切り段階での登録者が少なかつたため登録期間を延ばした。結果的には大会を盛況に開催できた。美術科教育学会の時と比較して、事務局や口頭発表の窓口が別に置かれていたことから負担は少なかった。司会等協力いただいた東北の先生方に感謝申し上げたい。

### ■談話

#### (1) 教職大学院について

教職大学院を立ち上げている山形大学、宮城教育大学から、学部授業との兼担の問題、教員の負担問題などについて説明された。

#### (2) 入試に関して(センター利用科目等)

H27 年度のセンター入試の利用科目として基礎理科も入ってくるので、各大学における入試の現況と理科をどのように位置づけるかを各大学の現況と重ねて意見交換した。

#### (3) 合同卒業展覧会について

山形大学では 2 年前から、山形での開催後に東京サテライトにて愛媛大学との合同展を行ってきている。今後、東北地区においても合同卒業・修了展覧会を開催することの可能性について話し合った。

#### (4) 美術科教員の大学院への関わり方について

各大学の大学院募集の現況と教科の位置づけ、定員充足の問題等について意見交換した。

#### (5) 教職への就職割合および現役学生の教職志向の割合

学生が教師を目指す割合や教員採用率について各大学の状況を説明した。年々受験者が少なくなっている状況や、震災後の問題、大学推薦の枠や今後のあり方について

紹介した。

#### (6) 震災後の状況について

震災後の受験状況、授業体制や卒業生の就職について意見交換した。宮城教育大学の「教育復興支援センター」、「さくら3.11」や福島大学の「うつくしま未来支援センター」などの復興支援活動の紹介があった。

#### (7) 各大学の改組の状況、大学再編について

新課程と大学院との関連、大学院の位置づけなどについて話し合った。秋田大学では国際資源文化の学部設立計画で4学部となる。山形大学は3学科から地域教育文化学科の1学科に改組した。宮城教育大学は教職大学院ができ東北大学との連携や大学の方向性を模索している。福島大学は、8年前に人間発達文化学類となり、平成26年に向けたカリキュラム改革のなかで教員養成高度化の準備をすすめている。秋田大学は「まなびの総合エリア」として教育実地科目、教員養成の高度化について紹介された。

#### (8) 教員養成の「高度化」について

教員養成を6年制とする高度化のなかで、学部、学科の体制、教育実習や教職大学院のあり方、教員の資質向上に関わる会議、大学改革実践プランについて話し合った。

最後に、23年度全国委員であった福島大学・片野教員より、昨年度の第三回役員会の内容について報告があった。散会后、場所を移し懇親会を持ち親交を深めた。

記録：渡邊晃一（福島大学） 報告：降旗 孝（山形大学）

## 中国地区会報告

平成24年度の中国地区会は、6月23日に西条 HAKUWA ホテル会議室にて開催された。当日は、中国地区4大学より、岡山大学4名、島根大学2名、山口大学2名、広島大学9名計17名が集まり、14時から17時まで活発な協議及び研究発表が行われた。

総会に先がけ、「広島の近世絵画史概観—郷土の美術史教材開発に向けて」（広島大学 菅村 亨）と題する研究発表が行われた。その後の定例総会では、出席者自己紹介や地区理事挨拶、全国理事会の報告等のあと、広島大学より「今後の中国地区会のあり方について」という協議提案があり、地区会年1回開催の是非や理事会開催回数削減に伴う地区会開催時期、地区会構成員の確認及び定例総会・研究発表への呼びかけ、意思決定のあり方等について協議が行われた。その結果、これまで通り地区会を年1回開催とし、時期は6月とすることを確認し、それ以外の事項については各機関に持ち帰った上で、来年度の地区会において決定することとした。また、山口大学より「学部生、大学院生の定員確保について」情報交換の提案があり、各大学から入試に関する取り組みについて報告が行われた。なお、平成29年度は、中国地区において全国大会開催が予定されており、開催大学候補である広島大学より中国地区各大学に対して協力依頼がなされた。会議終了後の懇親会では、地区会会員同士の情報や意見交換もあり親睦を深めた。

報告：蜂谷昌之（広島大学）

## 事務連絡

事務部長 佐藤聡史

### ■年会費関係

平成24年度年会費及び前年までの未納分について、納入が済んでおられない方は速やかに納入をお願いいたします。

年額 3,000円

未納分は本年度分と合算し一括納入して下さい。

振込先：

郵便振替口座（ゆうちょ） 郵便局で振込する場合

00520-9-47869

日本教育大学協会全国美術部門

他行より振込される場合

ゆうちょ銀行 059店 当座 0047869

日本教育大学協会全国美術部門

### ■ご協力のお願い Web

退職、異動、転職による会員情報の変更、または退会についてのご連絡は、速やかにいただけますようお願いいたします。

また、私学や小中学校等から大学教員として着任された方については、日本教育大学協会全国美術部門への入会が必要になります。貴学に該当される方がおられましたら、制度についてお伝えいただき、大学美術教育学会サイト内の新規申込フォームから会員の手続きをいただくようにお伝え下さい。

### ■平成24年9月1日現在の会員数（名簿上の人数）

大学会員 317名、部門会員 17名 合計 334名

### ■お願い

事務部は、日本教育大学協会全国美術部門と大学美術教育学会の合計約700名（延べ約1,000名）の会員の方に関する事務を取扱いたします。即時対応ができないこともございますので、ご理解、ご了承をお願いいたします。

<http://saeu.jp/>

大学美術教育学会 HP

### 【総務局】

- ・相田隆司（東京学芸大学）：「第43号」担当
- ・芳賀正之（静岡大学）ホームページ担当
- ・大泉義一（横浜国立大学）
- ・大成哲雄（聖徳大学）
- ・小泉 薫（お茶の水女子大附属中学校）
- ・竹内とも子（千代田区立九段小学校）
- ・新野貴則（山梨大学）
- ・山田一美（東京学芸大学）